



次世代育成は3世代で。



3.11の東日本大震災の後、提携校からの励ましメッセージなどに押されNPO 10年アリガトウ・プロジェクトを立ち上げた事もあり、[東日本大震災若者応援メッセージ]と銘打ったNPO・仕事への架け橋の作文コンクール表彰式に興味を持って参加した。

文部科学省に輝いたのは、宮城県農業高等学校一年の相澤和久君。幼い頃から祖父の農作業を手伝っている内に、小中学時代から無農薬栽培などの研究にも打ち込む様になる。3.11の大震災で自宅は半壊、田や畑の殆ども津波で流され、最低3年間は米が作れないと言う現実に直面しながらも、再建に向けて走り回る祖父の姿は、農業に従事する彼の夢を決定的にした。

続いて全国高等学校長協会会長賞に輝いた、静岡県立磐田農業高等学校3年の石田千尋さんも、小学校高学年から岩手に住む祖父が栽培するピーマン選別を手伝ったり、農業を法人化する先輩と会ったりしながら、農業を会社経営化する夢を熱く語った。

イギリスの寄宿学校から、今秋から進級する8年生のプロジェクトを持ち藤野智気が帰国した。課題はクリスマスまでに仕上げる[エネルギー資源]プロジェクト用の資料集め。

祖母さんとの歓談の流れで、この宿題が話題に上り、猛暑の東京を離れて、世界遺産に登録された岩手県平泉町に出かける提案をした所、智気も賛成し3人で出かける事が決定。

菅原正義・平泉町町長さんから、今年の平泉町の大文字祭りには岩手、宮城両県沿岸部で住宅建材などを集めた瓦礫が使われるとお聞きしていた。そして平泉町に隣接する衣川区で間伐材を利用した、バイオマス工場を現役時代立ち上げられた元衣川村長・佐々木秀康氏に、工場見学を申し出ると快諾を戴く。

佐々木氏は「祖母役が二人も居れば智気君も緊張するので、祖母さんとオレサマガセロ」とだけ言い残し、さっさと智気と祖母さんを車に乗せ立ち去った。共働きの親に代わって、お孫さんと日常生活で接触の多い佐々木氏のこの適宜なアドバイスに脱帽した。

智気は平泉、衣川地区の取材にフクシマ原発をどの様に絡めて、彼の感性で「資源エネルギー・プロジェクト」を仕上げるだろうか、高台で夜空に浮かぶ「大文字」を真剣に撮している後姿が逞しく見える。

7年前、夫婦共働き世帯の増加、少子高齢化、核家族の世相を背景に[孫と留学]を開始。育児に取り組む父親＝イクメンが浸透してきたが、イクジイ(爺)、ソフ(祖父)リエ運動を展開するNPO法人エガリテ大手前と、「孫と留」実践を基に3年前立ち上げた、NPO 3世代笑顔プロジェクトとのコラボも楽しみになってきた。



Michi recommends 響く本『Summer grass』



Rosemary Ciba

千葉 ローズマリー

1949年レスター(イギリス)生まれ
1972年リーズ大学芸術学部卒業
1972~75年ナイジェリア博物館勤務、サハラ砂漠の横断
1980~85年東京で英語教師、朝日イブニングニュース紙で絵画コラム担当
1991年~ 平泉に移り、農業と主婦業、平泉小学校でボランティア英語レッスン、平泉訪問外国人の案内、英字新聞記事投稿、平泉史跡英字案内資料、遺産センター英語作成等、
1995年達谷窟毘沙門神楽ニューヨーク、カーネギーホール日本の祭典で公演、本、NHK、民法などで紹介される
2001年達谷窟毘沙門神楽一員としてロンドンの日本祭で公演
2008年NHK神楽について放映
2010年義経平泉最後の2年間を描いたサマー・グラスを自費出版

義経と藤原氏を英文小説に 英国出身女性が出版

英国出身で平泉町在住の千葉ローズマリーさん(61)は、英文小説「Summer grass」(サマーグラス)を自費出版した。12世紀末、源義経の奥州下向から藤原氏滅亡までの激動の時代をドラマチックに描き、「Buddhist Pure Land」(仏国土・浄土)としての平泉を世界に発信する。

壇ノ浦で平家を滅ぼしながらも、兄頼朝の不興を買い、1187(文治3)年に藤原氏3代秀衡を頼って奥州に落ち延びた義経。ところが、秀衡は同年、この世を去ってしまう。

緊迫する平泉と鎌倉。4代泰衡は頼朝の圧力に屈して義経を襲い、義経は自害。だが、頼朝の真の狙いは藤原氏の打倒だった。1189年、奥州合戦で藤原氏は滅亡する。

歴史的経緯を踏まえつつも、千葉さんの筆致はイマジネーション豊かに義経や泰衡らの内面に迫る。義経や平泉への愛着、日本人の心情への深い理解を随所うかがわせる。

「頼朝からも、藤原氏からもプレッシャーを受ける義経。初代清衡以来の浄土平泉を守り抜こうと苦悩する泰衡。歴史上の人物の内面とともに、複雑な時代と社会も分かりやすく理解してもらおうと、小説という形式がふさわしい」

千葉さんは1991年、平泉町に移住。構想15年、本格的な小説を著したのは本作が初めて。きっかけは、夫の敏明さん(62)を通じて「義経記(ぎけいき)」の英訳本を読んだことだった。

「判官びいきというコンセプトは、英国人にも分かりやすい。成功の道を行く頼朝に対し、努力に努力を重ね素晴らしい活躍をしながらも最後には死ぬ義経の生きざまに同情した。その義経が外国人にはそれほど知られていないのが残念」とペンを執った。

作品中には平泉の美しい四季の移ろいや、庶民、特にも女性の心情をきめ細かく描写。それは、平泉の豊かな自然に包まれ、地域住民との親密な交流が織り成す千葉さんの日常生活の反映でもある。

エピローグに付された、松尾芭蕉の句「夏草やー」の新渡戸稲造による英訳「summer grass, -」。英語を母国語としない読者も想定し、平易な表現を心掛しつつ、文体は格調高い。

258ページ、350部印刷。定価1700円。

●問い合わせは千葉さん……(0191-46-4652、ファクス0191-34-1055)へ。
難波三津子……(03-5712-3670、ファクス03-5712-3671)へ。

MAPLE

2011年 NEWS Vol.67

7th Oct.2011

Dear Michi-san,
It was really great to see you again and I am already looking forward to our next meeting.

I am going home tomorrow and I will ask Jens Larsson if he has any photo in doctors uniform. I will let you know as soon as possible.

Please take care

Best regards

Britta Larsson



Jens Larsson

スウェーデンの外科医、
ヒル358匹を使い女性を救う!



Swedish surgeons reattach woman's face using 358 leeches after horrific dog attack

先月、スウェーデンの外科医(Jens Larsson)36歳は、飼い犬に上唇から鼻にかけて噛み切られた女性を15時間の手術で、形成に成功した。事件当時、この女性の側にいた親戚が、噛み切られた皮膚を冷凍し、マルモ市のスケーン大学病院に持ちこんだ。

即座にJens Larsson医師は国内のヒル養殖供給は不十分と判断、イギリスからも取り寄せたヒルも使い、冷凍された皮膚の血液循環に成功した。これまでヒルを使った類似ケースはあるが、北欧では初めてで大々的にこのニュースが報道された。

Larsson一家は、CASの日本語教室の生徒第一号で、26年間親交は続いています。



ENGLISH JAPANESE STUDIES
CANADIAN ACADEMY SETAGAYA
4-20-13-213 NOZAWA SETAGAYA-KU, TOKYO, 154-0003, JAPAN TEL:03-5712-3670
BRANCH:ENGLAND,CANADA,NEWZEALAND FAX:03-5712-3671